

# ストップ 安倍改憲



首相が主張

## 「次の国会に自民改憲案」

身内では言いたい放題  
国民には語りず押し付け

### 日本国憲法

第九条  
①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。



②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

安倍首相は「自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」と語りました(8月12日)。

自民党総裁選挙で9条改憲を争点にし、改憲発議につなげようという危険な動きです。

安倍首相が自衛隊明記の9条改憲を最初に提案したのは、昨年5月、右翼・改憲団体「日本会議」系の集会。今回の発言はタカ派ジャーナリズムの「産経」がサポートする長州「正論」懇話会。国政選挙では改憲をほとんど語りず、右翼・タカ派、党内など身内では言いたい放題。それを最後には国会や国民に押し付けるやり方は許されません。

自民総裁選 国民が望むのは  
経済の議論

(NHK8月調査)

憲法改正 6%

地方の活性化 20%

経済・財政政策 27%

自民総裁選で議論してほしいこと

安倍首相は総裁選を利用して、改憲世論を喚起しようとする動きです。

しかし国民が総裁選で議論してほしいと望むのは「経済・財政」や「地方の活性化」。「憲法改正」はわずか6%です(グラフ、NHK8月調査)。

秋提出「反対」49% 「共同」調査

共同通信の世論調査(8月25、26日)では秋までの改憲案提出に49%が反対。国民意識とズレています。

## 武力行使を無制限に

何も変わらないうつろか



残したまま、自衛隊を書き込むだけ」と言います。しかし「後からつくった法律は前の法律に優先する」という法律の原則によって、「戦力不保持」の9条2項は空文化します。

歯止めがなくなり、自衛隊の海外での武力行使が無制限になってしまいます。

安倍首相は自らの改憲案について「何も変わらないうつろか」

## 自衛隊を「戦争する軍隊」に



9条に明記すると言った自衛隊は、災害救助に汗を流す自衛隊ではありません。

安民法制によって集団的自衛権を行使し、長距離巡航ミサイルを持ち、専守防衛をかなぐり捨てた自衛隊です。

9条改憲で、自衛隊を「海外で戦争する軍隊」に変質させてはなりません。

## 3000万署名にご協力を

「憲法9条変えるな」と市民団体が3000万人を目標に署名を呼び掛けています。

日本共産党